

久しぶりの「全国園芸鉢物研究会」を開催

(社団法人)日本花き生産協による全国規模の生産者大会の鉢物部会である。生産協から、東京都の花き連の事務局である中央会に対して、以前から開催を依頼されていたようであるが、久しぶりに東京が会場の全国大会であった。

- ① 島しょ地域やシクラメン以外に、団地としてまとまった産地が見当たらない
- ② 視察先を巡る大型の観光バスの駐車問題がネックとなってなかなか開催できなかった。当時、JA 東京中央会の参与に就職されていた梅沢さんのご努力で、



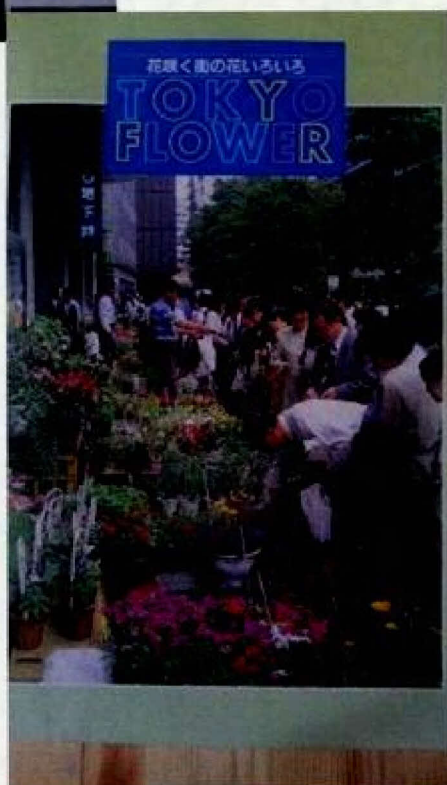
開催にこぎつけた。JA 東京中央会では、大竹さんが大活躍。あり方を議論した。立川の旧中央会の大会議室で、東京中の花き生産者が集合。

大会は、都庁の大会議室(1-5F)、視察産地は江戸川鹿骨地区と決まった。

今まで、全国の花き関係大会に参加してきた橋本は、大会記念誌について全く新しい提案を行った。

「その時だけではなく、後々まで使える資料、生産者の温室の隣の休憩所に置ける資料、事務所等の本棚にも置ける資料、様々な会議でも使用できる資料を作りましょう」と、会議で提案した。

これまでの大会記念誌は、県の統計資料、産地の紹介や県の研究成果等が主で、主役である生産者が出ていない。そこで、今回の記念誌は生産者情報にこだわった案を提案した。生産者にとっても初めての経験であったようです。労働力や経営規模とともに、①花たちとのあい ②経営の特徴 ③将来の夢についてもお願いした。その原稿の依頼と回収は、担当する普及にお願いした。多くに普及仲間が、多くの生産者情報を集めてくれた。生産者情報とあして、産地視察



にも有効に活用できる記念誌が出来上がった。

そして、全国の花たちが届く東京における中央市場と地方市場の役割と将来について、市場からの執筆をお願いした。さらに、花き市場に入り始めた自動せりについて、パーソナル情報システム株式会社推進部長の片桐氏に依頼した。

(1) 最新マルチメディア型せりシステム

開発の経緯・システムの概要と特長・映像の活用と取引・ネットワーク取引の可能性

(2) 園芸市場における自動せりの方向

園芸市場の特殊性

自動せり導入の意味導入だけでは形骸化のおそれ

これからの自動せりシステムのあり方

今では、当たり前前の自動せりであるが、開発担当者の本心を伺うことができた。

なお、片桐氏は、高校時代の同級生、荻窪花卉園芸市場の品評会でばったり再会し、彼の仕事内容を知り、早速執筆をお願いした。

千葉大への再就職を紹介してくれた高校の同級生鈴木氏らとともに、時々飲んでいる。昔話も、健康の話も、そして、次の時期と場所、そして幹事を決めてそれぞれ帰宅する。

今でも、仲間に恵まれている。

花咲く街の花いろいろ

TOKYO FLOWER



TOKYO FLOWER 目次

発刊のことば 第15回全国園芸鉢物研究大会実行委員長 加藤 源蔵

ごあいさつ 東京都知事 青島 幸男

日本花き生産協会鉢物部会長 田島 鉄弥

カラー口絵 ふれあい／うるおい／はぐくむ

I 東京の農業——現状と振興プラン	6
II 東京の花き園芸の特徴	10
III 東京における花き流通	12
1. 東京都中央卸売市場における花き流通	12
2. 地方卸売市場の役割と将来	14
3. 園芸市場における自動セリシステムの導入	16
「東京の花き園芸の生産・流通の目標と振興方向」	21
IV 東京の花き産地と生産者	25
1. 川の手ゾーン	26
2. 新山の手・南部ゾーン	47
3. 新山の手・北部ゾーン	60
4. 武蔵野・南部ゾーン	67
5. 武蔵野・北部ゾーン	79
6. 多摩中央・南部ゾーン	103
7. 多摩中央・北部ゾーン	110
8. 林間ゾーン	116

9. 海洋ゾーン	117
(1) 大島ゾーン	117
(2) 三宅ゾーン	134
(3) 八丈ゾーン	139
(4) 小笠原ゾーン	149
10. 東京都花卉園芸組合連合会（花卉連）の活動	151
11. 東京の洋ラン園芸	155
V 花き関係普及活動実績	157
1. 瑞穂町のシクラメン直売（宅配便）	157
2. 農業改良普及センターの実績から	161
VI 花きに関する研究報告	176
1. 東京を中心とする園芸鉢物の需要と消費	176
2. 東京都農業試験場の研究成果から	181
VII 花き関係参考資料	192
1. 花き生産に尽くした人々（東京都）	192
2. 東京都花卉園芸組合連合会会員名簿	197
3. 東京都花卉園芸連温室鉢花部会員およびJA花き部会名簿	198

編集後記

表紙デザイン 白井 薫

表紙の写真 都花卉連即売部会の「花の市」
裏表紙の写真 東京都の花・サクラと都庁舎

編集後記

東京の花き生産の歴史は古く、今をさかのぼること400年、江戸の昔から常に消費者ニーズに支えられ、今日にいたっております。このような歴史を重ねた東京で、1968年に第17回日本花卉生産者大会が開催されております。

当時、東京の鉢花はシクラメンに代表され、夏季に高冷地へ山上げするリレー栽培、さらにジベレリン処理による開花調整など、新たな技術開発で品質の高いシクラメンの生産体系が確立されました。また、プリムラやサイネリア、グロキシニアなどの導入も各県にさがけて行われ、さらに、このころとしては新しい鉢花としてポットマムの研究会が活発な活動を展開するなど、27年前を振り返るだけでも隔世の感がいたします。

第17回大会の記念誌として発刊された『東京の花』は、今でも東京の花き園芸の歴史を知るうえで貴重な資料として各方面でも活用されております。このようなことから、本大会実行委員会では、大会を開催できる栄誉に恵まれたこの機会をとらえ、『東京の花』に劣らぬ記念誌を発刊しようと編集に取り組んでまいりました。

編集にあたっては、東京都の農業振興政策と花き振興の位置づけのほか、これまでのものと趣向を変えて、花き生産者の花に対する取り組み姿勢などを中心に紹介いたしました。

本誌の発刊にあたって執筆の中心的な役割を果たされた東京都農林水産部の皆様方には、心からお礼を申し上げます。また、制作を委託した家の光出版総合サービスの清沢和弘氏には、専門的な見地から種々ご助言をいただいたことを申し添えます。

本誌の執筆、編集にご尽力をいただきました方々には、ご芳名を掲げ、深甚なる感謝を申し上げます。

平成7年11月13日

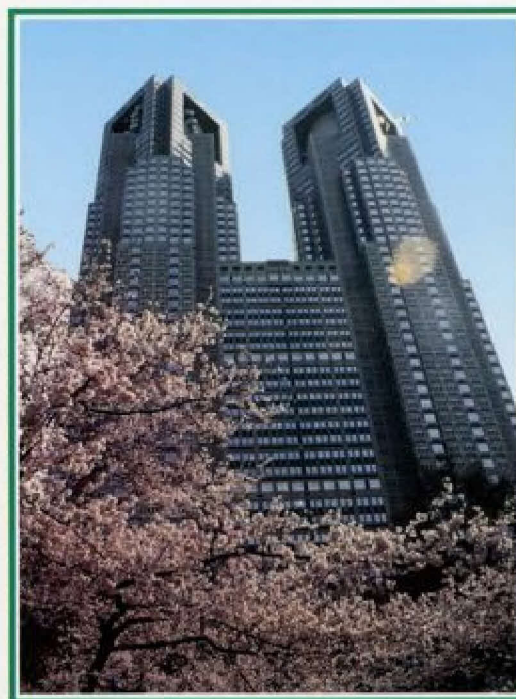
第15回全国園芸鉢物研究大会実行委員会

事務局長 大竹道茂

執筆者

東京都労働経済局農林水産部農芸畜産課	橋本智明	東京都中央農業改良普及センター(西部分室) 菊池 豊
東京都労働経済局農林水産部農芸畜産課	永塚 誠	東京都中央農業改良普及センター(三宅支所) 大貫卓爾
東京都労働経済局農林水産部農芸畜産課	川野 進	東京都中央農業改良普及センター(三宅支所) 大浦知行
東京都労働経済局農林水産部農芸畜産課	荒川 昭	東京都中央農業改良普及センター(八丈支所) 荒巻一雄
東京都労働経済局農林水産部農芸畜産課	鈴木秀治	東京都中央農業改良普及センター(八丈支所) 村田 実
東京都農業試験場経営部	滝沢昌道	東京都西多摩農業改良普及センター 三田一也
東京都農業試験場八丈島園芸技術センター	吉岡孝行	東京都西多摩農業改良普及センター 金子章敬
東京都小笠原亜熱帯農業センター	津田朋和	東京都南多摩農業改良普及センター 吉田正道
東京都中央農業改良普及センター	金川利夫	東京都南多摩農業改良普及センター 前田 稔
東京都中央農業改良普及センター	和泉吉隆	東京都農業協同組合中央会 梅沢幸治
東京都中央農業改良普及センター	両角正博	東京都農業協同組合中央会 朝倉信明
東京都中央農業改良普及センター(東部分室) 岩崎康夫		東京都農業協同組合中央会 岸 康之
東京都中央農業改良普及センター(西部分室) 荒木俊光		東京都農業協同組合中央会 斉藤隆雄

(順不同、敬称略)



1995

第15回 全国園芸鉢物研究大会
実行委員会